

ユーロ圏金融政策（2024年4月）

6月の利下げ開始へ一段と踏み込む

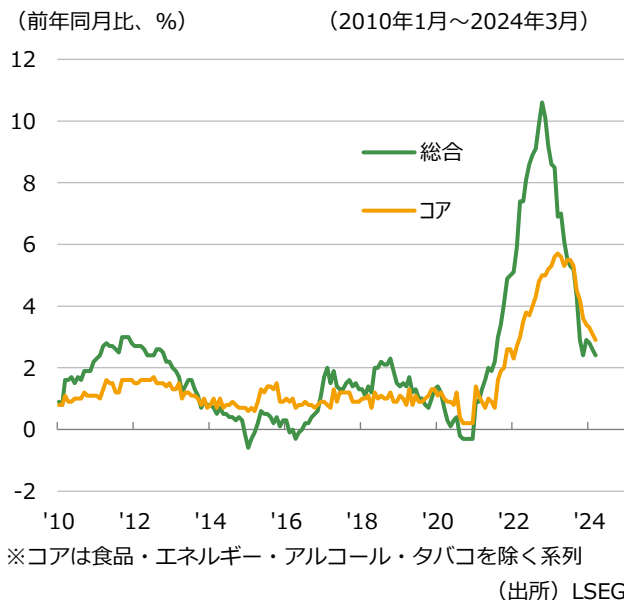
2024年4月12日

5会合連続で政策金利を据え置くも、声明文で「利下げ」に言及

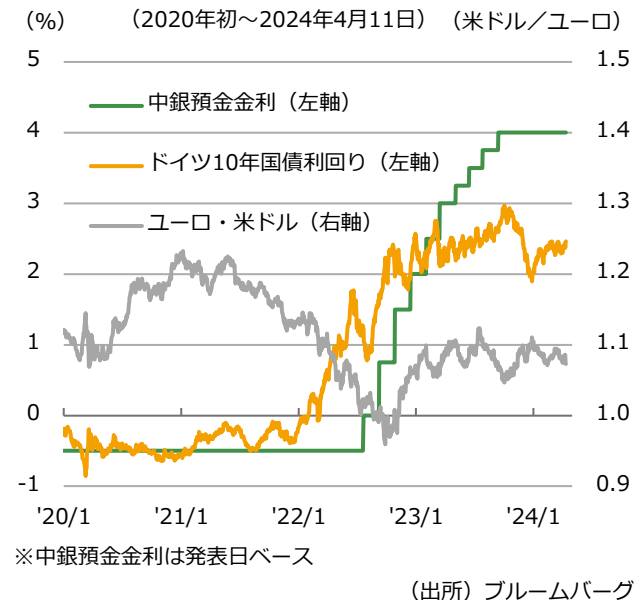
ECB（欧州中央銀行）は4月11日（現地）の理事会で、市場予想通り5会合連続で政策金利の据え置きを決定しました。中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を上回って資金を預け入れる際の金利）は4%です。

前回3月の理事会でラガルド総裁は、インフレ目標の達成に十分な確信を得るためにはより多くのデータが必要で、得られる追加データは4月だと少したが6月だと多いと発言し、6月の利下げ開始を示唆しました。今回は声明文も大きく変化し、「利下げ」を意図する一文が記されました。具体的には、「（政策判断の3つの柱である）インフレ見通し、基調的なインフレの動向、金融政策の伝達の強さに関する新たな評価において、インフレが目標へ持続的に収束しているとの確信がさらに強まった場合、現在の金融引き締めを低下させるのが適切であろう」との記述です。一方で、データ次第で会合毎に決定し、特定の金利の道筋を事前に確約することはないとも記し、総裁もその点を重ねて強調しましたが、インフレは低下し続けていて賃金の伸びも鈍化している、インフレは今後数カ月現行近辺での変動が予想されるが2025年半ばには2%に低下する見通し、サービス価格の伸びは高いままで要注視だが全ての項目が2%に回帰する必要はない、財価格の伸びは低下している等々、利下げを正当化する様な発言が目立ちました。景気や資金需要の弱さにも鑑みれば、6月の利下げ開始の可能性が高く、焦点はその後の利下げペースに移っていきそうです。景気、物価が上振れ気味の米国とは対照的で、ユーロは軟調に推移しています。

ユーロ圏の消費者物価指数



ユーロ圏の金利と為替



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。